

2.1 麻機遊水地の目指す自然の姿

いのち 『生命にぎわう わ(環・和・輪)の湿地麻機』

麻機に集まる水は、時には災いをもたらすこともあったが、多くの生命を育み私たちに恵みを与えてくれた。麻機に集まる生き物たちは、水を中心とした輪を育み、その輪は人が関わることによって微妙なバランスを保ちながら水面に広がる波紋のように小さな輪から大きな輪に広がり四季折々に豊かな表情を見せていた。

麻機の自然は原生自然ではなく、歴史的、文化的な人と自然との関わりから生まれた里地里山環境である。しかし、戦後の急激な人々の生活様式や社会環境の変化によりその輪が乱れ、かつてあった豊かな自然が徐々に衰退してきている。

そのため本構想では、**良好な生態系（環）、里地里山環境にあった人と自然との共生（和）、そして周辺の自然とつながり（輪）**を取り戻し、後世に伝えるために『**いのち**生命にぎわう わ（環・和・輪）の湿地麻機』を目指す。



2.2 自然再生の目標

麻機遊水地の目指す姿を実現するために以下の4つの目標を掲げる。

目標 1『良好な水環境の再生』(全体)

麻機の生命の源でもある水は、様々な要因により悪化している。そのため、麻機を目指す姿を取り戻すために水環境の改善を図る。

【自然再生事業の種類およびその概要】

①池沼部の水深の維持管理

流入土や腐植土の堆積により、水質や動植物の生息・生育環境が悪化しないように、池沼部の水深の管理を行う。

②水質・水位などの把握

適正な水質を維持していくために、池沼部や流入水などの水質、水位や水量の調査を定期的
に実施する。

③湧水の保全・再生

遊水地内で確認された湧水の保全を行うとともに、動植物の生息・生育環境に配慮した湧水
の利用について検討し、効果的に活用する。

④適正な水質および底質の管理

現在、流入水や池沼部の水質および底質で、環境基準を超過する値が確認されていることか
ら、環境基準を満足するとともに、動植物の生息・生育・繁殖環境として良好な水質を確保す
るために、水質浄化の対策を検討し実施する。

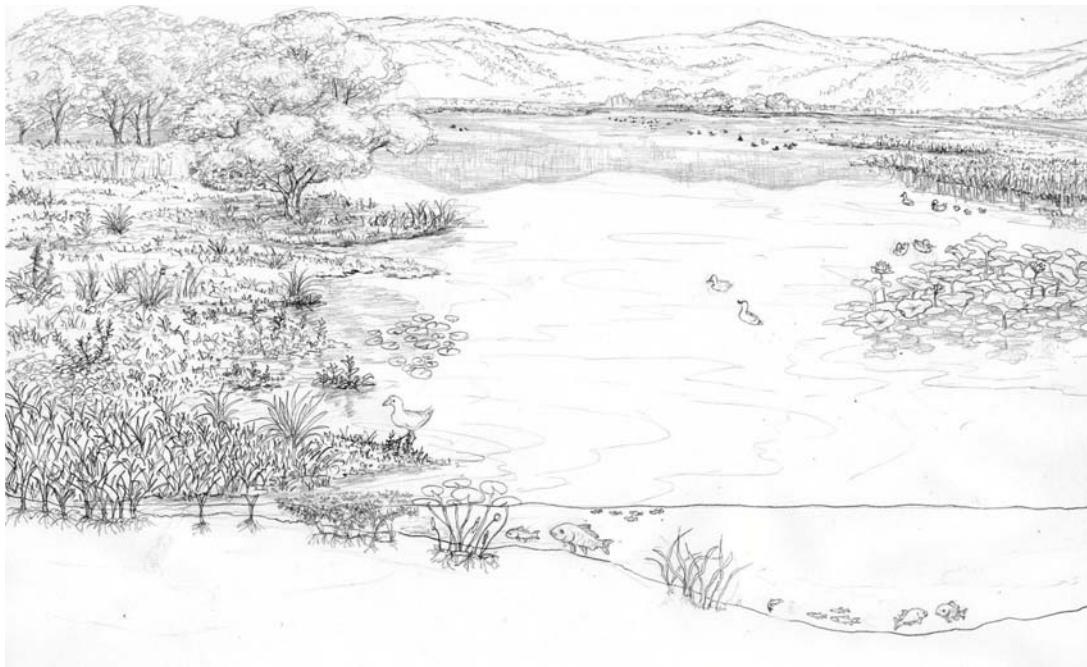
⑤澄んだ水の確保と水の流れを再生するための検討・実施

第3工区では、他の工区と比較して水の流入が非常に少なく水の滞留などによる水質悪化が
懸念されるため、水の確保や流れの検討並びに対策を実施する。また、第1工区については、
湧水や流入水を生かす検討を行い、整備に反映させる。

【目標達成後のイメージ図】



水路部の目標イメージ



池沼部の目標イメージ

目標 2:『在来種の保全と生態系のバランスを保つ』(環)

麻機では、湿地特有の多くの動植物の姿を見ることができる。しかし、外来種の増加や植生遷移により、その生態系は崩れ始めている。そのため、在来種を保全しながら、生態系のバランスを保つ。

【自然再生事業の種類およびその概要】

①外来種の管理手法の検討および対策の実施

現在、遊水地で確認されている外来種の駆除や、麻機の自然環境に影響を及ぼす外来種の持込を規制するための管理手法の検討と対策を実施する。

②動植物の生息・生育環境の保全・再生

現在、動植物の生息・生育の場として良好なバランスを維持している箇所については、積極的に保全していくとともに、自然環境のバランスが悪化した箇所については、悪化原因やかつて動植物が生息・生育していた環境を調査し良好な自然環境を再生するための対策を実施する。

③動植物の事前調査・モニタリング調査の実施

良好な自然環境を維持していくために、自然再生事業の実施前後の動植物調査を行い、動植物の生息・生育環境として適正な環境であるか評価を行う。評価の結果、目的との間に明らかな相違が生じた場合には、実施計画の見直しを行う。

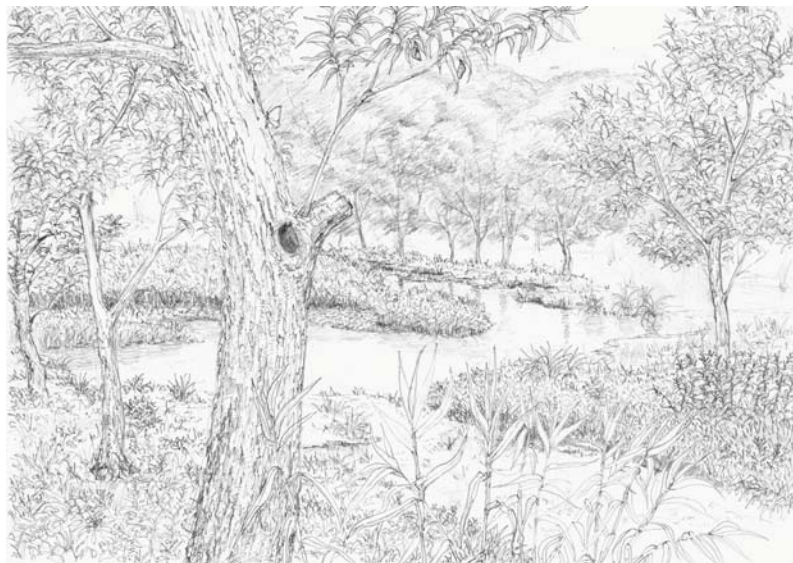
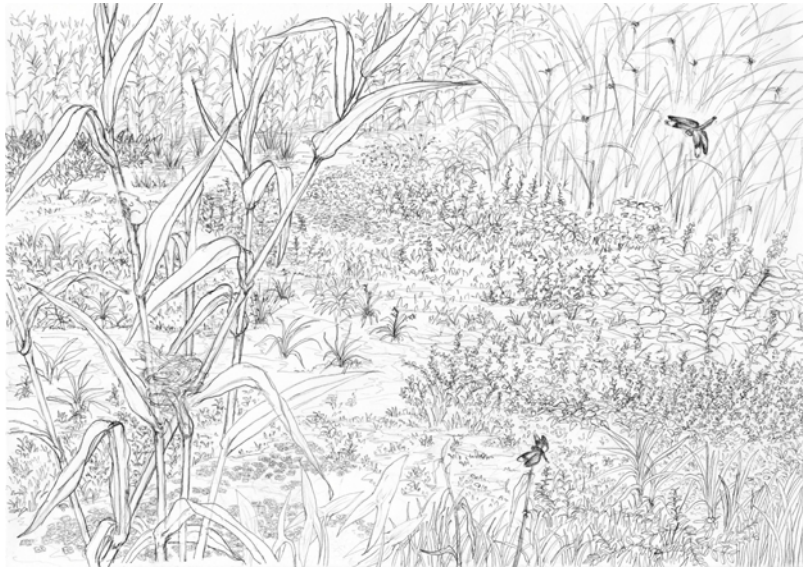
④適正な開放水面の検討・維持管理

鳥類・魚類などの生息環境として適正な開放水面を確保するために、水面を覆いつくす繁殖力の強い植物の制御ならびに維持管理方法を検討し実施する。

⑤表土の保全と土の持ち込みに関するルールづくり

治水・公園機能に配慮した上で、目標で定めた生態系を再生するために、動植物の生息・生育の基盤となる表土の保全を行なうとともに、他地域からの土の持ち込みに関するルールづくりを行う。

【目標達成後のイメージ図】



湿地部の目標イメージ

目標 3:『人と自然との持続的な関わりづくり』(和)

麻機の自然は、かつての里地里山環境にあった「人と自然との関わり」の中で維持されてきた。しかし現在では、そのような関わりが減少し、自然環境が悪化、衰退している。そのため人と自然との関わりを見直し、後世の人達が持続的に自然の恵みを受けられることができる環境を目指す。

【自然再生事業の種類およびその概要】

①環境学習の場としての活用方法の検討・実施

環境学習の場としての活用方法を検討し実施する。また、環境学習に関わる施設整備については、地域の特性（学校、福祉施設、病院）や市民の憩いの場としての利用にも配慮する。

②水田の維持管理・利用方法の検討・実施

良好な里地里山の再生に寄与すると期待される遊水地の水田について、その利用方法（耕作水田、動植物に配慮した水田）や設置位置（治水に影響を及ぼさない位置など）などに関する検討を行い実施する。また、水田の維持管理に関する指導や次世代の指導者育成を行う。

③利用に関するルールづくり・対策の実施

動植物の生育・生息環境保全のために、立入り制限区域を設定するなど、利用者と自然との共生を図るために、利用ルールの検討・対策を実施する。

④風俗・風習の継承

現在も引き継がれている、「柴あげ漁」の開催や、「沼のばあさん」の伝承など、麻機地域の風俗・風習を後世に引き継ぐ。

⑤清掃作業の実施

クリーン作戦や定期的な草刈作業を実施する。收拾されたゴミなどについては、必要に応じて行政または企業が処分する。

⑥安全管理の推進

安全に利用できるように、危険箇所の改善や定期的なパトロールを実施する。また、利用者への利用ルールの周知徹底を図る。

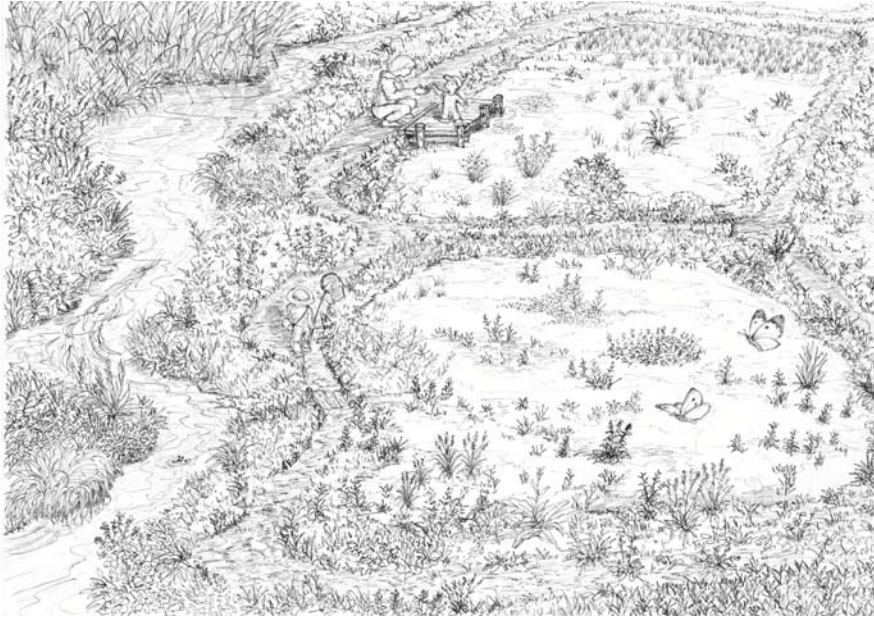
⑦持続的な自然資源活用のための検討・実施

良好な里地里山が形成されていた時代の人と自然との関わり方を調査研究し、かつて麻機周辺で見られた耕具や農法、知恵といった伝統的技術の活用を図る。また、自然再生の過程で発生する刈草や土を資源として利活用する仕組みづくりに取り組み、循環型社会の形成を担う。

⑧今後を担う人材の育成

麻機の自然を後世に伝えるために、植物、野鳥、魚類、昆虫などの個々の専門的知識を有し、麻機固有の自然環境に精通する者や環境学習を実施できる人材の育成を行う。

【目標達成後のイメージ図】



水田環境の目標イメージ

目標 4:『周辺とのネットワークづくり』(輪)

麻機の自然とその周辺の山、田畑、巴川流域とのエコロジカルネットワーク、さらには市民・団体・企業・行政との人的ネットワークを図る。

【自然再生事業の種類およびその概要】

①周辺の自然環境とのネットワーク形成の推進

麻機の生物多様性を高めるために、麻機遊水地周辺の農地、林地などの広域的なネットワークの形成や関係機関との連絡調整および働きかけを行う。

②自然再生事業の情報の発信および収集と市民参加の推進

麻機の自然環境および自然再生事業について、市民が認識を深め、自発的に自然再生の取り組みへ参加することを促すため、ホームページや広報紙などにより情報の発信や収集を行う。

③市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進

情報交換や作業協力を行うために、他で活動している市民、団体とのネットワーク形成を図る。さらに体制を強化するために、国、県、市の関係機関との連絡調整および地元企業などと連携を深め、自然再生事業の一層の推進を図る。